



淡建発第 320003 号
平成 19 年 5 月 2 日

国土交通省道路局長 宮田年耕 様

兵庫県淡路市長 門 康彦



中期的な計画の作成にあたっての意見書の提出について (回答)

平成 19 年 4 月 2 日付国道企第 1 1 4 号にて依頼のあった標記のことにつて、
別紙により提出します。

中期的な計画の作成にあたっての意見書

道路は、地域の自立的発展や交流促進、安全で安心できる生活を確保する上で欠くことのできない社会基盤です。とりわけ、地方においては経済・産業などあらゆる活動を支える生命線であります。

京阪神への通勤通学などの生活道路の整備の面においても、未だ不十分であり、安全で安心な暮らしの確保や地方の活性化、経済活動の発展を支えるためには、これから「真に必要な道路」の整備が緊急の課題であり強力で推進していくことが必要であります。

淡路地方では、昭和 60 年の大鳴門橋の開通、平成 10 年 4 月の明石海峡大橋の開通により、本州・四国と陸続きとなり、淡路島から京阪神への通勤・通学の利便性が大きく向上しました。

このことにより、通勤通学面では高速バス路線の増便、高速バスターミナルの整備等が行われ良好な環境が整備されつつありますが、一方で明石海峡大橋・大鳴門橋を含む本州四国連絡道路（神戸淡路鳴門ルート）の通行料は他の高速自動車国道に比べ、陸上部で 1. 2 倍、海上部（橋梁部）では 4 倍近い設定になっています。

このことから、京阪神と四国を結ぶ車両は淡路島の陸上部では一般国道及び県道を通り、非常に危険な状況を生み出しています。国道の整備状況は全線 2 車線化されているが歩道がない区間も多く、歩行者・自転車等には非常に危険なものとなっています。県道においては更に整備が遅れ車道の整備すら十分整っていない状況であります。

このようなことから次の事項について重点要望いたします。

- 1 平成 10 年 4 月の全線開通以来特別料金で運用されている本四道路は、他の高速道路料金に比べ依然として割高感があり、淡路地域の経済活動やその他の地域との交流に多大な影響を及ぼしている。

また、通行料の割高感から橋以外は本四道路を使用せず、国道 28 号や県道福良江井岩屋線を利用する大型車が増加し、生活環境の悪化と慢性化する交通渋滞、交通安全への不安は深刻な問題となっている。

道路特定財源の活用により本四道路料金のさらなる低減化をはかり、安全・安心の淡路島づくりに寄与されますよう要望いたします。

2 合併特例法の施行により、淡路島においても1市10町から3市となりました。しかし、各旧町間を結ぶ県道及び幹線市道は未整備で、特に道路整備面では地域間格差が大きく合併によるスケールメリットを生かせず、行政運営に大きな支障となっています。美しい淡路市・淡路島づくりには道路整備は欠くことのできない最重要課題であります。よって、目的税である道路特定財源を最大限に活用し、合併を支援する道路整備を促進されますよう要望いたします。

平成19年 5月 2日

国土交通省道路局長 宮田年耕様

兵庫県淡路市長 門康彦

